

平成 17 年 4 月 6 日

(市長記者会見資料)

京 都 市
(担当 消防局庶務課 212-6629)

新型消防ヘリコプター「ひえい号」の配備と 「スーパーコマンドレスキューチーム」の創設について

京都市では、震災・水災等の大規模自然災害やN B C 災害等の特殊災害をはじめ、あらゆる災害に迅速・的確に対応するため、消防体制の一層の充実・強化を図っているところです。

この度、高度な応急処置が可能な救急救命装置や赤外線カメラ装置、従来の約2倍の900ℓの水を搭載できる消防用タンク等の最新機能を備えた消防ヘリコプターを配備するとともに、全国の消防機関としては初となる高度な救助能力と総合的な指揮機能を併せ持つ、本部指揮救助隊「スーパーコマンドレスキューチーム」を創設することとしましたので、次のとおり、お知らせします。

1 消防ヘリコプターの配備

京都市では消防ヘリコプターを2機保有(ひえい号・あたご号)し、通常火災や事故における上空からの状況把握をはじめ、山林火災における空中消火や山岳救助、遠隔地における救急搬送など様々な災害現場活動に迅速に対応しているが、昭和63年の初フライト以来17年を経過しているため、最新の性能・装備を備えた消防ヘリコプター(新「ひえい号」)に更新するものである。

(1) 機種

ユーロコプター社製AS365N3「ドーファンII」

(2) 主な装備(別紙参照)

	新「ひえい号」	「ひえい号」
ア 救急救命装置	○	×
イ 赤外線カメラ装置	○	×
ウ ヘリコプターテレビ電送システム	○機外カメラで遠隔操作(ズーム44倍)	○機内カメラ(ズーム18倍)
エ 消火用タンク	○機外タンク(900ℓ)	○機内タンク(500ℓ)
オ G P S 装置	○	×
カ 衝突防止装置	○	×

(3) 運行開始

平成17年4月7日(木)

(4) 事業費

12億5千万円

(5) 性能

全長	13.73メートル	最大全備重量	4,300キログラム
全幅	3.25メートル	最大出力	851馬力×2基
全高	4.06メートル	最大座席数	13席
主回転翼直径	11.94メートル	最大巡航速度	時速286キロメートル

(6) その他

平成17年4月26日(火)の京都市消防活動総合センター(南区上鳥羽塔ノ森下開ノ内他)竣工式において、本部指揮救助隊と併せて新「ひえい」号の紹介を行う。

2 本部指揮救助隊（「スーパーコマンドレスキューチーム」）の運用

本部指揮救助隊とは、高度な救助能力・機材を持つ本部救助隊（スーパーレスキュー）と本部救助隊を指揮する本部指揮隊（スーパーコマンド）で構成された、消防局本部直轄の少数精鋭部隊で、大地震やN B C災害など特殊で高度な救助活動が必要な場合、一体的に迅速な活動を展開する。

本部指揮救助隊には、生存者を探査する電磁波探査装置などの最新鋭の救助機材を装備する。

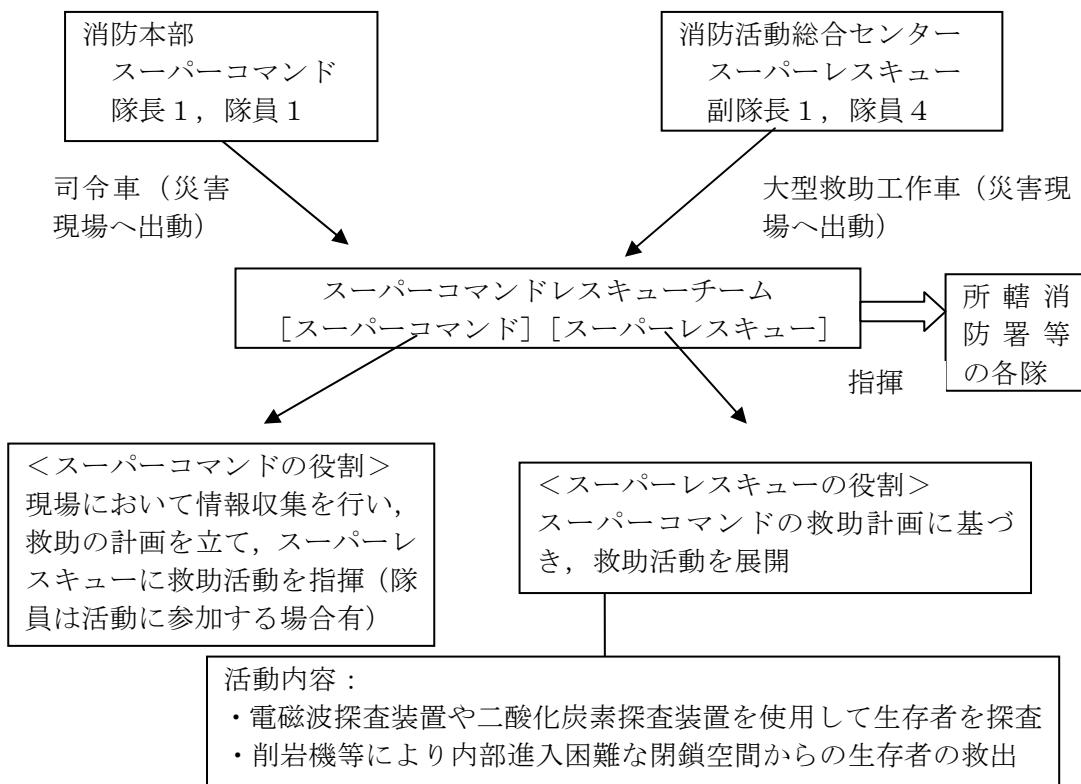
（1）部隊の概要等

本部指揮救助隊(スーパーコマンドレスキューチーム)		
21名配置（1チーム7名×3交代）		
	本部指揮隊(スーパーコマンド)	本部救助隊(スーパーレスキュー)
配置場所	消防局本部	消防活動総合センター
配置人員	6名配置（1チーム2名×3交代） ：隊長1名 隊員1名	15名配置（1チーム5名×3交代） ：副隊長1名 隊員4名
使用車両	司令車	特殊災害（N B C）対策車、大型救助工作車

（2）部隊の主な任務（例）

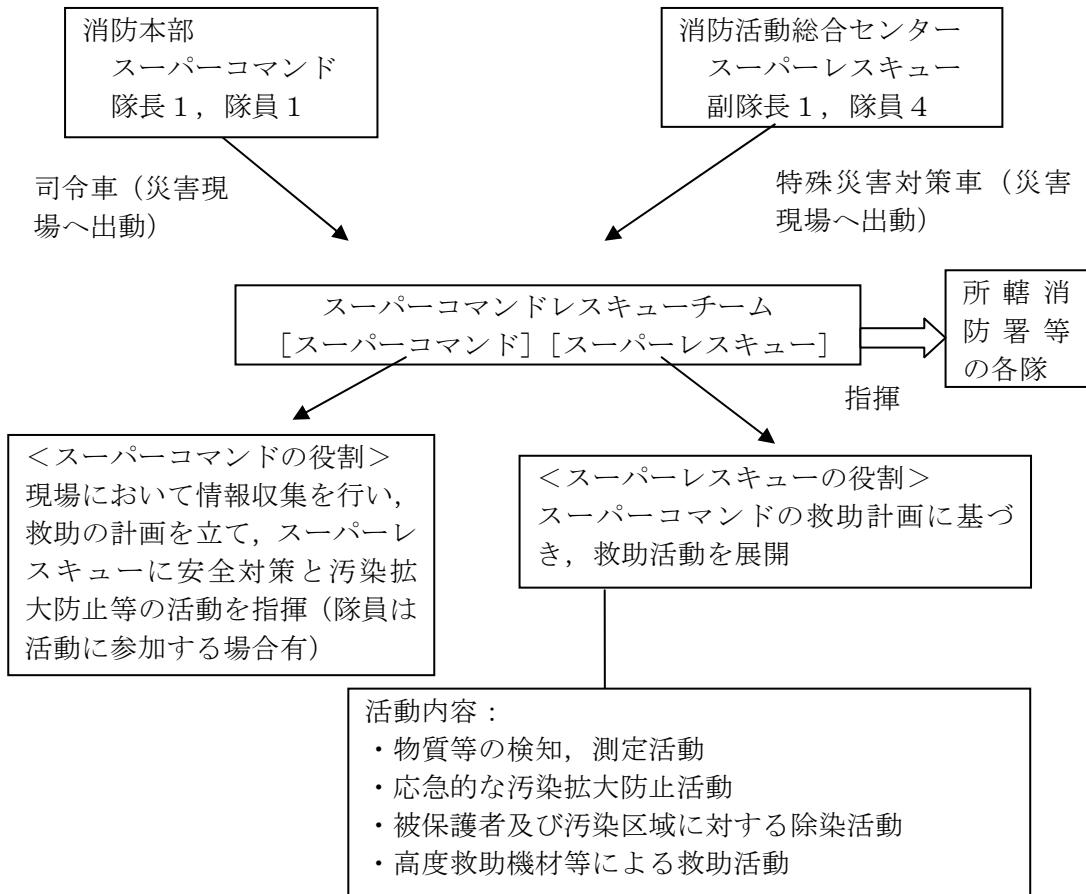
①大地震等に伴う困難な救助活動

本部指揮隊（スーパーコマンド）は消防局本部から司令車で、本部救助隊（スーパーレスキュー）は消防活動総合センターから大型救助工作車で現場へ急行する。合流した本部指揮救助隊（スーパーコマンドレスキューチーム）は、所轄消防署の各隊等に対して指揮を行い、高度な救助活動を実施する。



②テロ・N B C災害に伴う救助活動

本部指揮隊（スーパーコマンド）は消防局本部から司令車で、本部救助隊（スーパーレスキュー）は消防活動総合センターから特殊災害（N B C）対策車で現場へ急行する。合流した本部指揮救助隊（スーパーコマンドレスキューチーム）は、所轄消防署の各隊等に対して指揮を行い、検知や救助活動を実施する。



(3) その他

火災や水災等の通常災害時には、本部指揮救助隊（スーパーコマンドレスキューチーム）は、災害発生現場を所轄する消防署の指揮隊や救助隊等（※）の活動を支援する。また、緊急消防援助隊や国際消防救助隊の派遣要請があった場合、迅速に出動する。

※ 本市には、救助活動を専門に行う所轄（方面）救助隊が5隊（北部・中部・南部・西部・東部）あり、12の消防署（分署）にそれぞれ指揮隊がある。

指揮隊…災害現場において、情報収集を行い、活動計画を立て、出動した救助隊等に対する活動の指示や現場における広報活動を実施する。

救助隊…救助に関する専門の技能・知識を有した隊員が、救助機材を活用し、人命救助活動を行う。

(4) スーパーコマンドレスキューチームに導入する機材等

本部救助隊（スーパーレスキュー）には、従来から保有する画像探査機などの高度救助機材のほか、3種類（電磁波探査装置・二酸化炭素探査装置・水中探査装置）の高度探査装置を導入する。（別紙参照）

(別紙)

[消防ヘリコプターの主な装備]

ア 救急救命装置

A E D (除細動器) や心電図伝送装置等の高度な救急機材を機内に設置。高規格救急車と同様に救急救命士による高度な救急処置が可能となり、遠隔地での救急搬送に効果がある。

イ 赤外線カメラ装置

可視できない地中火等を赤外線カメラにより映像で確認する装置。山林火災等において燃焼範囲等の確認が可能となる。

ウ ヘリコプターテレビ電送システム

上空から火災などの災害状況を撮影し、その映像を消防指令センターに電送するシステム。

なお、地震等の大規模災害発生時には、被災状況の映像を災害情報画像伝送システムにより、総務省消防庁や首相官邸等へも送信する。

※ 災害情報画像伝送システム

地震などの大規模災害発生時に、比叡山等に設置した高所カメラや消防ヘリコプター等により撮影した画像を通信衛星「スーパーバード」により、総務省消防庁、首相官邸、他都市消防本部へ送り、即時応援体制を確立するためのシステム

エ 消火用タンク

機体下部に装着した機体一体型のタンク(容量900リットル)。常時装着可能で山林火災時には、迅速な空中消火が実施できる。

なお、従来の機内タンク(容量500リットル)と比較して、機内スペースが有効活用でき、容量も多く、また、ホバリング(ヘリコプター特有の機能で、空中で停止飛行すること)しながら自己給水することが可能となった。

オ G P S 装置

飛行高度及び現在地が、機内及び消防指令センターで把握できる位置情報システムで、全国で初めてヘリコプターの位置を消防指令センターの3D地図に立体的に表示することができる。

カ 衝突防止装置

航空機同士の衝突を警報により防止する装置。

[スーパーコマンドレスキューチームに導入する機材等]

電磁波探査装置：建物の倒壊や土砂崩れ等の災害現場で、瓦礫等に埋もれた生存者の呼吸等の動きを電磁波によって探査する装置

二酸化炭素探査装置：建物の倒壊や土砂崩れ等の災害現場で、瓦礫等に埋もれた生存者の排出する呼吸の二酸化炭素を高感度で検出する装置

水中探査装置：水没した行方不明者の水中捜索現場で、水中誘導可能な広角レンズ付の水中を探査する装置